

製品名: P2Y11 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15607**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	P2RY11
別名	P2RY11; P2Y purinoceptor 11; P2Y11
遺伝子 ID	5032.0
SwissProt ID	Q96G91
免疫原	抗血清はヒト P2RY11 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 140-189

背景

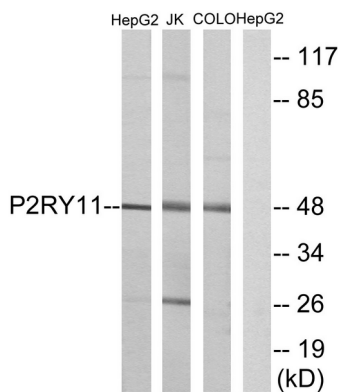
この遺伝子産物は G タンパク質共役受容体ファミリーに属します。このファミリーには、様々なアデノシンおよびウリジンヌクレオチドに対して、薬理的選択性が異なる複数の受容体サブタイプ（一部は重複）が存在します。この受容体は、ホスホイノシチドお

およびアデニル酸シクラーゼ経路の刺激に共役し、選択的プリン受容体として作用します。この遺伝子と直上流遺伝子（ピーターパンホモログをコードする PPAN） との間の遺伝子間スプライシングによって生じる、自然発生的なリードスルー転写産物が見出されています。PPAN-P2RY11 リードスルー mRNA は普遍的に発現しており、各遺伝子産物と同一性を共有する融合タンパク質をコードしています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]機能: ホスファチジルイノシトールカルシウムとアデニル酸シクラーゼのセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質に共役した ATP および ADP の受容体。UTP または UDP では活性化されない。誘導: DMSO およびレチノイン酸によって促進される。その他: PPAN および P2RY11 遺伝子領域を含む推定トランススプライシングにより融合タンパク質が産生される。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。組織特異性: 脾臓で最も高く、小腸では低い発現を示す。、

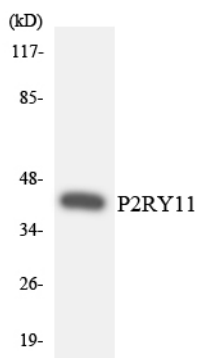
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

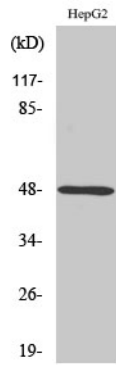
画像データ



P2RY11 抗体を用いた HepG2 細胞、Jurkat 細胞、および COLO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



P2RY11 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



P2Y11 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析